

中関小で大規模災害を想定して 児童・園児の引き渡し訓練

きょうだいと保護者で一緒に帰宅

中関小(亀田浩太郎校長、723人)で19日、大規模災害に備えた保護者への児童引き渡し訓練があった。隣接する中関幼稚園の園児らも参加して、きょうだいで同時に帰宅する流れを実践した。

高潮を想定した訓練で1～6年の約400人と保護者、児童と兄弟姉妹関係の園児28人が参加した。小学生は各教室で待たされた。



保護者がきょうだいを同時に引き取って帰宅した

野上恭子さん(42)は、長男の小2大翔君(7)と長女の年少莉央ちゃん(3)の引き渡しを受けた。「いざというときのため、こうした訓練をしてくれるのはうれしい」と野上さん。

訓練は同小で毎年開かれていたが、2020～21年はコロナ禍で中止。昨年度は1～2生と園児のみで実施しており、今回は全学年が参加していた。

亀田校長は「訓練を通して、『大人たちが守ってくれる』という意識にもつながれば」と話している。

「引き渡し訓練」

令和5年5月24日
ほうふ日報